



校長室より



令和5年7月20日

No.7

7月20日（木）、一学期の終業式を迎えました。私も本校校長として一年目の最初の節目です。怒涛のように始まり、静かに夏休みに入ったそんな感じがしています。

終業式のあいさつでは、まず、全校児童生徒 49 名一人一人が、みはまの絵を完成させるためのかけがえのないピースであるという話をさせていただきました。個性のある一人一人が輝きながら仲間とともに組み合わせたり、一つのみはまとしてできてくるこれからの絵を楽しみにしたいと思います。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症と位置付けられ、周囲の生活が少しずつ変わってきています。本校は、和歌山病院と隣接し、医療的ケアの必要な児童生徒も在籍していますので、どの学校よりも慎重に行動してきたと思っています。そのような中、一学期の行事を振り返ると、五嶋みどりさんたち ICEP の音楽コンサートは、とても印象に残る行事でした。本物の音楽を通して心がつながる体験、心がふるえる体験ができたのではないのでしょうか。

二学部の児童生徒は、今年度より校外に出での活動にも取り組んでいます。高等部3年生の東京修学旅行、中学部全員での和歌山市内校外宿泊学習、その他にも校外学習等も実施して、仲間と一緒にワクワクする体験、新しくチャレンジする体験ができています。かけがえのない思い出となっていますね。

一方、一人で数日間、現場実習に取り組んでいる高等部3年生もいます。自分の卒業後の進路と真剣に向き合い、チャレンジしている姿も素晴らしいです。この夏もインターンシップに取り組む生徒もいます。夏休み期間を自分のやりたいこと、なりたい自分を目指して、ぜひチャレンジする機会にしてほしいと思います。やりたいことをみつけることはいつからでも始められます。あきらめずに続けていれば何かが起こります。チャレンジすることをあきらめないでほしいと思っています。



みはま49

